

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位	4	対象	第2学年A組～E組
使用教科書 (出版社)	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)		使用教材 (出版社)	4プロセス数学Ⅱ (数研出版)			

月	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
4月	3字式展開と因数分解 二項定理 整式の除法と分数・恒等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>3次式の展開と因数分解の公式を利用できるようにする。</li> <li>二項定理を3項にも適用できるようにする。</li> <li>整式の割り算の方法を理解する。</li> <li>分数式の四則計算ができるようにする。</li> <li>係数比較法と数値代入法を理解する。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	12
5月	式の証明 複素数と2次方程式の解	<ul style="list-style-type: none"> <li>等式が証明でき、等号条件が求められるようにする。</li> <li>不等式が証明でき、相加平均・相乗平均の関係を利用して証明できるようにする。</li> <li>複素数の表記を理解し計算に習熟する。</li> <li>2次方程式の虚数解について理解する。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	12
6月	複素数と2次方程式の解 高次方程式・点と直線	<ul style="list-style-type: none"> <li>解と係数の関係を使って対称式の値が計算できるようにする。</li> <li>剰余の定理や因数定理を用いた因数分解、方程式の解法を身につける。</li> <li>内分・外分の意味を理解させる。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	16
7月	点と直線 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線の平行条件・垂直条件を理解させる。</li> <li>点と直線の距離を公式で求められるようにする</li> <li>円の中心と半径が求められるようにする。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	8
9月	円 奇跡と領域 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>円の方程式から、その性質を調べ、円や円と直線の関係についての理解を深める。</li> <li>ある条件を満たす点の集合としての軌跡の考え方を理解させる。</li> <li>一般角、弧度法に慣れさせる。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	16
10月	三角関数 加法定理	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフを用いて三角関数の特徴を理解させ、方程式・不等式を解けるようにする。</li> <li>三角関数の加法定理や合成など理解させ、応用問題を解けるようにする。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	16
11月	加法定理 指数関数 対数関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>指数を負の数まで拡張しても指数法則が成り立つことを理解させ、計算に習熟させる。</li> <li>グラフの特徴を理解させる。</li> <li>対数の定義を理解させ、計算に習熟させる。</li> <li>対数関数のグラフの特徴を理解させる。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	16
12月	対数関数 微分係数と導関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>常用対数について知り、応用できるようにする。</li> <li>平均変化率の極限值として微分係数が求められるようにする。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	8
1月	微分係数と導関数 関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>導関数を定義し、微分法を用いて関数の増減を調べられるようにする。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	12
2月	関数の値の変化 積分法	<ul style="list-style-type: none"> <li>微分法を用いて応用問題を解けるようにする。</li> <li>不定積分・定積分を定義し、計算ができるようにする。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	16
3月	積分法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定積分の応用として面積の計算ができるようにする。</li> </ul>	定期試験と平常時の総合評価	8